



ひろみ
星 宏海さん (32歳)
庭師 (造園業)

●プロフィール
【小学生】
当時住んでいた家の近所は自然が豊かで、特に樹木に触れるのが好きだった。それが、今の仕事の原点。
【中学生】
2年生のころから造園の仕事を手伝うようになった。父親が働く姿を間近に見ていた。
【高校生・専門学校生】
造園コースがある高校に進学。講義や剪定の実習などを習得。
造園の専門学校に進学し、幅広く庭造りの知識を身に付けた。
【就職】
大手の造園会社に就職し、現場監督として活躍。帰宅は深夜という毎日。新横浜駅前公園、よこはま動物園ズーラシアなど、大規模プロジェクトに携わった。
【修業】
父親の造園会社に職人として弟子入り。一から技術を学び直す。
最近では技術も向上。今年は寺の庭造りを設計から施工まで自分で行うチャンスにも恵まれ、今はその準備に余念がない。また、所属する協会の会合にも積極的に参加し、最年少役員に抜てき。若手の庭師の集団「庭盛会」を組織するなど、業界内での活動も活発に行う。

このコーナーでは、プロフェッショナルとして生きていこうと夢を持つ若者に焦点を当てて、その努力の姿を紹介します。

今回は、父親を師匠に持ち、庭師として修業を続ける星宏海さんを訪ね、お話を伺いました。

造園の手伝いは中学生のころから

日本の伝統的な庭造りはもちろん、現代的なガーデニング、植木の手入れなどを専門的に担う職人、それが庭師です。今回ご紹介する星宏海さんは、父親である親方に弟子入りし、今年で修業は九年目。父親が造園業を営んでいる関係から、中学二年生から夏休みや冬休みなど、長期の休みを利用して家業の手伝いをしていました。「小さいころから樹木が好きなきっかけもあり、楽しかったですね。家族で力を合わせて庭

造りすることに、喜びも感じていました」

中学校卒業後は、造園コースがある地元高校に入学。卒業後は、造園の専門学校に進学しました。

「専門学校では父親以外で初めて、第一線で働く方から講義を受けるなどして、具体的に造園について学びました。それまでは迷いもありましたが、造園の幅広さ、奥深さを知り、将来の仕事として具体的に考えるようになりました」

大手造園会社で学んだこと

専門学校卒業後、星さんは大規模な公園の造成などを担う大手造園会社に就職しました。

「父親が営む会社は少人数、担える仕事には限界があります。当時は、都市緑化などの規模の大きい仕事に興味があり、そのよ

父親に弟子入り 大手会社員から 職人の世界へ

たといいます。

「元請けの現場監督は、大きな権限があり、下請けの業者さんに対して、立場も上です。当初は、自分の下で働くどんな方にも誠意を持つて対応していましたが、やがて仕事の効率性がかり考えて、手足のように使ったり、横柄な態度を取るようになってしまいました。そんな自分に嫌悪感を感じるようになったのです」

父親に弟子入りを決意

そんなとき、たまたま実家に帰省し、父親の仕事を見たのが、人生の転機となりました。「やはり職人の血が受け継がれているのでしよう。父親は、内部の小さな枝にどう日が当たるのかまで考えて、時間をかけて植木の手入れを行っていました。そのはさみさばきも、とても見事で、大いに衝撃を受

けました」

庭師とは自らの感性や技術を注ぎ込む、クリエイティブな仕事だと気付き、職人として造園業に携わりたいと、父親の下に弟子入りすることにしました。

当初は、初心に帰って、技術を一から学ぶことに努めました。

「最初は植木の手入れ一つとっても、どうしても納得のいく仕事ができませんでした。懸命に努力を重ね、二年ほど経過したころのことです。ある日本家屋のクスノキの手入れを私が行うようにと親方から指示されました。それは、お客さんが長年育ててきた名木でした。大事な仕事を任せてもらったことに感謝し、懸命に手入れを行いました。幸い出来栄もよく、仕事を終えたときの喜びや充実感は今でも覚えていています」

業界でも若手のリーダーとして活躍

最近では、多くの経験を積み重ね、腕前が飛躍的に上がったとのこと。お客さんからも、親方の息子としてではなく、一人前の職人として評価されることが多くなり、それがうれしいといいます。

また、近年は業界を盛り立てるために、積極的に所属する協会の会合などにも出席、若手では異例の役員に抜てきされたほか、技術の向上と親睦を目的に、同年代の庭師たちによる「庭盛会」という組織を立ち上げるなど、若手のリーダーとしても積極的に活動しています。



石の組み合わせを考えながら、石畳の道を作っていく。庭造りの中でも地道な作業の一つ



石があたかも初めからそこに存在したように、自然に見えるように据え付けるのが鉄則。事前に何パターンも頭の中に思い描いた上で、適した石を一番いい位置に据え付ける



竹穂(竹の幹以外の枝)を適量に束にして骨組みに取り付けていく。軽やかに温かな雰囲気を出し出す。節を揃えたり、枝の切り方に個性が出る



植木の手入れの風景。樹形を変えずに、木の特性に応じた手入れを行う。外側から切り口を見せずに剪定するのもポイント

星宏海さんの
将来へのまなざし
「父親のように、丁寧に庭造りに励んでいきたい」

「金融教育フェスティバル2008」を盛大に開催

このコーナーでは、毎回、金融広報中央委員会の最近の取り組みや活動内容を紹介してまいります。今回は、日本銀行本店を会場として開催された「金融教育フェスティバル2008 行こう！みんなのきんゆう大冒険」についてご紹介いたします。

金融広報中央委員会では、去る一月二十六日(土)、日本銀行本店を会場として「金融教育フェスティバル2008 行こう！みんなのきんゆう大冒険」を開催しました。このフェスティバルは、子どもたちとその保護者の皆さまや、幅広い年齢層の大人の方々が、金融や経済の仕組み、あるいは、暮らしに身近なお金の知識について、楽しみながら学べるイベントです。今回で三回目の開催となりました。

当日は、真冬の冷たい風の吹く中、約千八百名の方々にこ来場いただきました。

今回のフェスティバルでは、子どもたちには「冒険」をキーワードに、おかねや金融の仕組み、



「知るぽると銀行」のカウンターで通帳を受け取る子どもたち

人に扮したスタッフから、金座の役割、「お金」としての「信用」などについて説明を受けます。説明を終えると、子どもたちに「給料」として小判(レプリカ)が渡されます。受け取った小判一枚は、今のお金に換算すると約四万円と教えられ、「落としたら大変!」と子どもたちはびっくり。さっそく銀行に預けることにします。

ミッションⅢでは、「知るぽると銀行」に小判を預けるための預金口座を作ります。キャッシュカードの暗証番号を決める際の注意点などを聞いてから、自分で暗証番号を記入し、預金通帳(おこづかい帳)とキャッシュカ

銀行の仕事について楽しく学べる体験型プログラムや、おかねクイズなどを、また、大人の方には、暮らしに役立つ身近なテーマを取り上げたセミナーや、金融教育に関する資料の展示・配布コーナーなどをご用意しました。



熱気溢れる会場内の模様

ードを窓口へ提出します。確認印を押した預金通帳を受け取って全てのミッションが終了です。三つのミッションが終わると、子どもたちからは、達成した喜びの笑顔がこぼれていました。このプログラムは、子どもたちにとって、働いてお金を得ることの大変さ、お金の価値や信用の大切さなどについて考える、良いきっかけとなったのではないのでしょうか。

ガチャピン、ムックと行く知るぽると島たんけんツアー
子どもたちが、ガチャピン、ムックと一緒にお金の勉強!

「知るぽると島たんけんツアー」は、子どもたちがクイズに挑戦



クイズ第一問目、一斉に手が上がり、全員正解!

銀行の仕事体験。
初めて「お給料?」がもらえた! 「知るぽると冒険広場」三つのミッションに挑戦

このプログラムでは三つのミッションに挑戦することで、中央銀行の役割、銀行の仕事、江戸時代の金座のこと、小判やお札が「お金」として人々から信用され流通する仕組み、銀行に預金することの意味などについて学ぶことができます。

参加した子どもたちは、最初に、ミッションIへ。ここでは、見習中央銀行員として、まずはお札の数え方、次に破れたお札の引き換え基準について学びます。そして最後に採用試験。問題に「正解」とすると、採用の証しとして「業務完了書」を受

しながら、日本銀行の仕事やお金のことについて学ぶことができます。プログラムです。ガチャピンが参加するグループとムックが参加するグループに分かれて開催しました。ツアーでは、日本銀行本館一階の旧営業場、二階の史料展示室、地下金庫(現在は使われていません)を巡りました。クイズでは、コインやお札、日本銀行の仕事などについての簡単な質問が出題されました。子どもたちは目を輝かせながらクイズに答えていました。

「知るぽると金融教育教室」も満員御礼

委員団体・関係団体のご協力による社会人向けのセミナー「知るぽると金融教育教室」を十三講座開催しました。講座では、専門家から、金融や保険・証券、家計・ライフプラン、消費者トラブルなど、暮らしに身近な幅広い分野の話を聞くことができるとあって、どのセミナーも大変な人気でした。中には複数のセミナーを受講する熱心な方もおられました。



真剣な表情で「仕事」に取り組む子どもたち

け取ります。ミッションIに参加した子どもたちは、先生の話に真剣に耳を傾け、見学していた保護者の方々も、傾きながら熱心に聴いていました。

続いて、江戸時代の金座を再現したミッションIIです。金座職



セミナーの模様

金融教育の関連資料を一室に展示

協力団体からご提供いただいた金融教育関連資料を展示して無料配布するコーナーを設けました。会場には百種類以上の資料が一室に展示され、さまざまな見本市会場のようでした。また、パソコン教材コーナーでは、子どもたちが熱心にパソコンを操作して、いろいろな教材を興味深そうに試していました。

終わりに

今年の金融教育フェスティバルは、一月の大変寒い時期の開催となりましたが、多数の皆さまにご来場いただきましたことにつきまして改めてお礼申し上げます。